19日　金曜

創世記

10:1 これはノアの息子、セム、ハム、ヤフェテの歴史である。大洪水の後、彼らに息子たちが生まれた。
10:2 ヤフェテの子らはゴメル、マゴグ、マダイ、ヤワン、トバル、メシェク、ティラス。
10:3 ゴメルの子らはアシュケナズ、リファテ、トガルマ。
10:4 ヤワンの子らはエリシャ、タルシシュ、キティム、ドダニム。
10:5 これらから島々の国民が分かれ出た。それぞれの地に、言語ごとに、その氏族にしたがって、国民となった。
10:6 ハムの子らはクシュ、ミツライム、プテ、カナン。
10:7 クシュの子らはセバ、ハビラ、サブタ、ラアマ、サブテカ。ラアマの子らはシェバ、デダン。
10:8 クシュはニムロデを生んだ。ニムロデは地上で最初の勇士となった。
10:9 彼は【主】の前に力ある狩人であった。それゆえ、「【主】の前に力ある狩人ニムロデのように」と言われるようになった。
10:10 彼の王国の始まりは、バベル、ウルク、アッカド、カルネで、シンアルの地にあった。
10:11 その地から彼はアッシュルに進出し、ニネベ、レホボテ・イル、カルフ、
10:12 およびニネベとカルフの間のレセンを建てた。それは大きな町であった。
10:13 ミツライムが生んだのは、ルディ人、アナミム人、レハビム人、ナフトヒム人、
10:14 パテロス人、カスルヒム人、カフトル人。このカスルヒム人からペリシテ人が出た。
10:15 カナンが生んだのは、長子シドン、ヒッタイト、
10:16 エブス人、アモリ人、ギルガシ人、
10:17 ヒビ人、アルキ人、シニ人、
10:18 アルワデ人、ツェマリ人、ハマテ人。その後、カナン人の諸氏族が分かれ出た。
10:19 それでカナン人の領土は、シドンからゲラルに向かって、ガザに至り、ソドム、ゴモラ、アデマ、ツェボイムに向かって、ラシャにまで及んだ。
10:20 以上が、その氏族、その言語、その地、国民ごとの、ハムの子孫である。
10:21 セムにも子が生まれた。セムはエベルのすべての子孫の先祖であり、ヤフェテの兄であった。
10:22 セムの子らはエラム、アッシュル、アルパクシャデ、ルデ、アラム。
10:23 アラムの子らはウツ、フル、ゲテル、マシュ。
10:24 アルパクシャデはシェラフを生み、シェラフはエベルを生んだ。
10:25 エベルには二人の息子が生まれ、一人の名はペレグであった。その時代に地が分けられたからである。彼の兄弟の名はヨクタンであった。
10:26 ヨクタンが生んだのは、アルモダデ、シェレフ、ハツァルマベテ、エラフ、
10:27 ハドラム、ウザル、ディクラ、
10:28 オバル、アビマエル、シェバ、
10:29 オフィル、ハビラ、ヨバブ。これらはみな、ヨクタンの子であった。
10:30 彼らが住んだ地は、メシャからセファルに及ぶ東の高原地帯であった。
10:31 以上が、その氏族、その言語、その地、国民ごとの、セムの子孫である。
10:32 以上が、それぞれの家系による、国民ごとの、ノアの子孫の諸氏族である。大洪水の後、彼らからもろもろの国民が地上に分かれ出たのである。

Bible Reference 聖書の記述

32節には、諸国の民がノアの兄弟から出たことが書かれています。人類は兄弟であることは聖書から言っても間違いないことです。人種や民族を超えて愛を表し、協力し、励まし合い、主のために一致することは可能なことであり、創造の理にかなっていることです。

ハムの子孫にカナンがあり、彼らはイスラエルの近くに位置して常に彼らを悩ませた民です。またニムロデは最初の権力者ですが、その意味は反逆者です。彼はバベルという神への反逆を企てる地を起こしたのです。権力を自分のために求める者は神に敵対するものであり、神から与えられた権力を神のために管理する者は神に仕える者です。

セムは肉においてはイエス様の祖先であり、最も詳しく書かれています。イエス様が現実の系図の中に生まれたことが示唆されています。現実に働かれ、世界の歴史を動かす神の力を認め、信頼し、希望を持って生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？